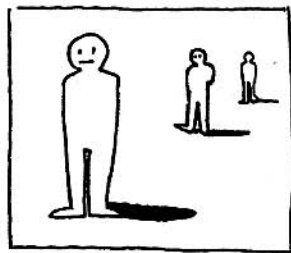
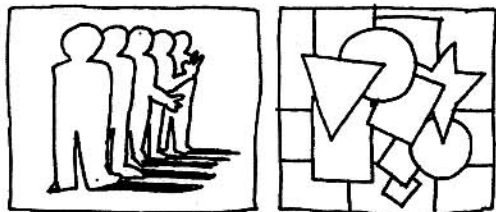


3 遠近感(奥行き)を出そう。

① 近くのものほど大きく見える。



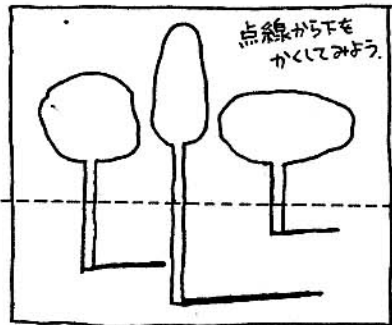
② 物と物を重ねる。



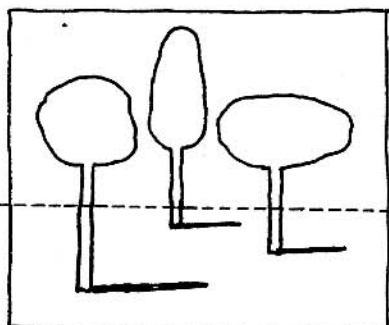
(意味のない形でも重ねると前後や奥行きが出る)

③ 地面に接する所は、

近くのものほど、画面上で下にくる。



点線から下をかくてみよう。



実際の風景を見る時には、

鉛筆を真横にして、色々な物の横の位置関係を見る。



左右の絵は、点線より上は同じです。地面にはえている位置が、画面上で下にあるほど近くに見えます。実際の景色や写真でも、そうなっているよ。机の上にある物も、指さしてみると、ね、近くの方が、下でしょう。

でも、天井や雲(目の高さより上にあるもの)は逆なんだ。



近くの雲は上(大きい) 近くのものほど上。

遠くの雲は下(小さい) 遠くのものほど下。

地平線 — 地平線はいつも目の高さにあるんだ。1Fでも10Fでも、目の真正面に見える。

4 遠景・中景・近景をつくる。

遠景

遠くなるほどほんやり単純に描く

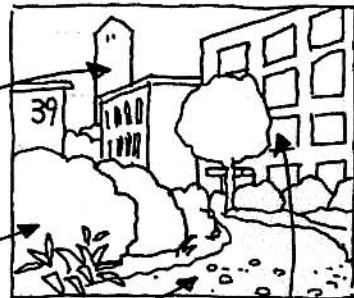
近景

細かくはきり強く描く

中景

ふつうに描く

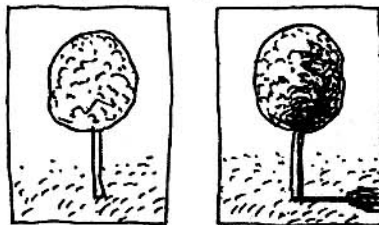
★ 近景を細かく描くと、遠くは、大きっぱに描いてあってもちゃんと描いてあるように見える。



4 光と陰を描こう。

絵具で塗るのではなく、絵具でしっかり描くんだ!

① 陰をつけると光が生まれる。



右の絵には、光が強く感じられる。同時に、立体感や空気感。それに、「時間」まで感じられるかもしれない。でも、日本人は左の絵の方が好きかも。

② 陰をつけるコツ。

- 好きな光と陰になった時刻に描く。たいてい覚える。
- 余裕があれば、2、3日で。
- 写真を撮れば楽なけど、感動がなくなりわざとらしくなりやすい。

5 心が表現できているかな。

描きたい風景との出会いは、自分の「心の風景」との出会い。最初に場所と出会い、魅力を感じて、構図を決め、自分が描きたいものを明確にしてみました。絵のねらい、自分の心が表現できているか、チェック! 「興味深いもの/魅力的な領域」を特別扱っていていい。それ以外の部分は、簡略に扱ってもいいんです。